

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 17 日

【評価実施概要】

事業所番号	3670600109
法人名	医療法人 田岡会
事業所名	グループホームやまびこ
所在地	徳島県三好市池田町シマ17番地1 (電話) 0883-72-5500

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 21 年 2 月 13 日

【情報提供票より】(平成 21 年 1 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤:12人、非常勤:4人、常勤換算:すいせん 6.89人 すずらん 6.68人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	2 階建ての	2 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	おむつ代、実費、寝具リース代:3,000円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	実費 円
または1日当たり		1,400 円		

(4) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 15 日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 88.6 歳	最低	82 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	老人保健施設すこやか
---------	------------

徳島県 グループホームやまびこ

1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所周辺には老人福祉施設や保育園、総合病院、医院、スーパー、商店等が点在し、買い物や散歩、外出等の利便性に富んでいる。事業所は鉄筋コンクリート造りの建物の2階部分にあり、2つのユニットの共用部分に変化を持たせ、利用者が行き来して一緒にお茶を飲んだり、話したりして外出気分が味わえる空間となっている。医療連携体制をとり、利用者や家族と連携を密にして重度化した場合や終末期に向けた取り組みにも努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な課題である「運営推進会議を活かした取り組み」については、地域包括支援センター職員の参加と全職員への議事録の回覧、確認印・サインが行われているが、開催頻度が年1回であり改善に至っていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価のねらいを理解し、活用するため全職員で自己評価を行っている。課題分析や検討会議を全員で実施し、サービスの質の向上に繋がるよう取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は年1回開催し、利用者や家族、自治会員、商店主、地域包括支援センター職員、事業所関係者が参加している。会議では事業所の状況や自己・外部評価結果、改善への取り組み等の報告、入居者の満足度や参加者からの要望等について話し合っている。議事録は全職員に回覧して確認印・サインし、情報を共有してサービスの質の向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見等は連絡ノートや意見箱、苦情相談窓口、面会時の話し合い等で把握している。要望等は全て記録に残して全職員で検討し、運営に反映して家族への結果報告も行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元自治会に加入し、地域行事(お祭り、餅つき大会、清掃等)へ参加したり、事業所の行事に近くの保育園児、婦人会、三味線の会などがボランティアとして来訪する等、相互交流が図られている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の方たちと交流を図りながら、住み慣れた環境の中でその人らしい暮らしを支援できるよう事業所独自の理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング等で理念を復唱し、確認し合いながら共有と実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元自治会に加入し、地域行事(お祭り、餅つき大会、清掃等)へ参加したり、事業所の行事に近くの保育園児、婦人会、三味線の会などがボランティアとして来訪する等、相互交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価のねらいを理解し、活用するため全職員で自己評価を行っている。課題分析や検討会議を全員で実施し、サービスの質の向上に繋がるよう取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には利用者や家族、自治会員、商店主、地域包括支援センター職員、事業所関係者が参加している。会議では事業所の状況や自己・外部評価結果、改善への取り組み等の報告、入居者の満足度や参加者からの要望等について話し合っている。議事録は全職員に回覧して確認印・サインし、情報を共有してサービスの質の向上に活かしている。しかし、開催頻度は年1回となっている。	○	運営推進会議は2か月に1回、開催されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広域連合主催の研修や担当窓口を訪ねた際に、事業所の現状報告や相談をしたり、助言や指導をしてもらうなどしてサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者ごとに連絡ノートを作り、日々の状況や気づき等を記入して家族に見てもらい、また家族からの記入もある。金銭出納への確認印もあった。職員の異動等はホーム内に掲示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見等は連絡ノートや意見箱、苦情相談窓口、面会時の話し合い等で把握している。要望等は全て記録に残して全職員で検討し、運営に反映して家族への結果報告も行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にとどめている。離職等やむを得ない場合は引継ぎ期間をできるだけ長くし、利用者への影響を防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の雇用形態にかかわらず、採用時から内部・外部研修は計画的に全職員が参加できるよう配慮している。研修後は報告会を実施し、情報を共有できるよう取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協会に加入し、研修会に参加した際などに意見交換を行っている。また近くの同業者と交流する機会を持ち、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に職員が利用者の自宅を訪問し、顔馴染みの関係を築いたり、本人・家族にホームを見学してもらい他の方とお茶やゲームを楽しんでもらったりし、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの個性や能力、長年培われた技術、経験を活かして昔ながらの風習や行事、生活の知恵、技術を教えてもらうなど、共に学び、支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の常日頃の行動や表情などから、本人の好みや関心事を見逃さないよう引き出し、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者や家族と話し合い、希望やニーズを把握し、関係者の気づきや課題を反映させて、一人ひとりにあった本人本位の具体的な内容となっている。計画書には本人・家族のサインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて見直している。また利用者の状態やニーズの変化に合わせて、家族の意向等も反映して随時、見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、本人や家族の意向、状況に応じて早期退院の受け入れや通院への付き添い、送迎など柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりの希望や心身の状態に合わせて希望するかかりつけ医と連携し、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、入居後すぐに利用者や家族、必要な関係者で話し合い、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の暮らしの中で、言葉かけ等は常に利用者の尊厳とプライバシーに配慮している。また個人情報保護について内部研修を行って取り扱いを全職員で徹底し、マニュアル作成もされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴、起床時間等は利用者のペースを常に優先して日々の生活が送れるよう支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、利用者が得意分野で力を発揮して食材の買い物や下ごしらえ、台ふき、後片づけ、食器洗い等を行い、職員と共に楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりにその日の希望を聞き、いつでも入浴が楽しめるよう支援している。また入浴を拒む利用者には時間や声をかける職員を替えたり、気の合う方に誘ってもらったりするなど、工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望や残存能力、体調の変化等を把握し、花づくりやメダカの世話、洗濯物たたみ、草抜き、習字やちぎり絵などの楽しみ事、気晴らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を聞き、散歩や買い物、ドライブ、地域行事への参加など積極的に外出できるよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は鍵をかけることの弊害を理解して鍵をかけないケアに取り組み、常に見守りを行って安全に配慮し、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、昼夜を想定した防火、避難訓練を実施している。消防や併設施設と連携し、研修や通報訓練などを行い、地域の協力も得られるよう働きかけている。また災害対策マニュアルも整備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を記録し、母体法人の栄養士から助言、指導を受け、利用者一人ひとりの状態に合わせた支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2つのユニットの共有部分に変化を持たせ、利用者が自由に行き来して一緒にお茶を飲んだり、話したりと外出気分を味わえる空間となっている。また雛人形や生花、鉢植えの花等を飾り、気持ちが和み、季節を感じられる空間をつくっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者や家族と相談し、本人が日頃から好んで使用していた日用品などを持ち込み、自宅との差異が少ない雰囲気をつくり、不安を解消して居心地よく過ごせるよう支援している。		